

富士宮を襲った富士山噴火

―青沢溶岩流、風祭川火砕流、

二子山天母山噴出物に関する新知見―

小林 淳 Makoto Kobayashi

静岡県富士山世界遺産センター

Eruption of Mt. Fuji that attacked Fujinomiya City

The new findings about Aosawa lava, Kazamatsurigawa pyroclastic flow and Fuagoyama-Anmoyama ejecta.

富士山ハザードマップ（改定版）では、富士山南西斜面に想定火口範囲が大幅に拡大し、富士宮市街地でも富士山噴火の影響を受けるリスクが高くなった。本論では、現在の富士宮市街地近くにまで噴出物が迫った、青沢溶岩流、風祭川火砕流、二子山天母山噴出物に焦点をあて、これらの噴出物に関する知見を整理し、高精度地形データの解析・判読や新たに実施した現地調査をもとにこれらの噴出源と噴出物の分布範囲について検討した。

キーワード：噴火割れ目 ハザードマップ 青沢溶岩 風祭川火砕流 二子山天母山噴出物 富士山

はじめに

二〇二一（令和三）年三月に公表された富士山ハザードマップ（改定版）には、初版が公表された二〇〇四（平成一六）年以降、新たに得られた火山学的知見が反映されている^①。その一つとして、考慮対象期間が最近三二〇〇年間から最近五六〇〇年間へと拡大されたため、火口や噴出物が新たに発見されたものを加えて大幅に増加したことがあげられる。富士宮市域は富士山西―南西斜面から山麓域に広がるが、初版では、山頂域を除き火口想定範囲に含まれず、中心市街地までの溶岩流の到達時間は噴火開始後一週間程度見込まれたことから避難には十分な時間的余裕があるとされていた。しかし、改訂版では、市街地から五キロ程度しか離れていない二子山が考慮対象期間に新た

に含まれたことにより、想定火口範囲が富士山南西側にはみ出す形となり（図1）、さらに、二子山から南西に連なる凹地も火口群として認定されたことから、市街地中心部に溶岩流が二―三時間以内で到達することになった。この結果、富士宮市にとっては、地域の避難計画の大幅な見直しが余儀なくされている。

本論では、過去の富士山噴火において、現在の富士宮市街地近くまで噴出物が迫った「青沢溶岩流」^②、「風祭川火砕流」^③（須走―b期火砕流の一つに相当^④）および、「二子山天母山噴出物」^⑤（天母山溶岩流）^⑥に焦点をあて、これらの噴出物の産状に係る既往調査結果を整理するとともに、新たに実施した現地調査結果に加え、国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所が取得した航空レーザ測量データから作成した1メートルメッシュの赤色立体地図図^⑦及び最近になって静岡県が公開した